

# 1. 評価報告概要表

評価確定日 平成19年11月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2277101974
法人名	医療法人 社団静隆会
事業所名	グループホーム 曳馬の家
所在地 (電話番号)	浜松市中区曳馬3-12-5 (電話) 053-468-6000

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成19年6月18日

## 【情報提供票より】( 19年 5月 31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	17 人	常勤16人、非常勤2人、常勤換算17.2人	

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	3階建ての	1階 ~ 3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	有( ) 円 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり1,500円			

### (4) 利用者の概要( 5月 31日現在)

利用者人数	27 名	男性	2 名	女性	25 名
要介護1	4 名	要介護2	9 名		
要介護3	10 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	69 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小島医院(内科)
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して4年目を迎えるホームは、3ユニットで鉄骨3階建の外観からはやや施設的な印象を受けるが、建物内部は暖かみのある家庭的な雰囲気になっている。管理者及び職員は、ホームの特性と役割を十分に認識し、利用者本位のサービス提供に心掛けて利用者に接してきているので、利用者は職員を全面的に信頼し、安心して生活している。利用者の表情もとても穏やかで、思い思いにゆったり生活している。職員の態度や言葉かけも穏やかで、病院グループの法人を母体に持つ利点を活かしながら、ホーム独自の工夫も実践している。利用者を主役とした管理者

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義と目的を理解し、改善点を全職員に周知し取り組んでいる。運営理念の表示、居室のあり方、配食の工夫、地域との関係づくりなど前回評価での改善課題に前向きに取り組んできている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価に関わる意義を十分に理解し、職員全員が自己評価に取り組んでいる。自ら課題になっている事柄についてもそれらを共有している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は発足したばかりであるが、運営状況の報告を行い、それに対する意見も出される等、有意義に行われている。会議録も詳細に残されている。今後も定期的に開催していく中で、会議を通じてより良い運営に繋がられるように期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見、苦情の言い易い関係作りにこれまで取り組んできた。出された意見、要望は職員全員で話し合い、改善に向けて努力している。今後は、家族会の開催等で家族が自由に話し合える場作りをしていくことも期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会との連携や協力が得られる関係づくりが講じられてきている。利用者も自治会行事への参加を積極的に行ってきたので、今後もそれを深め、生活に幅が広がるように更なる取り組みに期待したい。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしく生活ができるような関係作りに重点をおいた具体的な理念が、各ユニットごと習字の得意な利用者を書いてもらい、それぞれのフロアの見やすい所に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	状況を見極め、利用者が今どんな思いでいるか、管理者、職員が共に意識し理念の実践に向けて取り組んでいることが、言葉掛けや対応に表れている。ホーム理念の確認を定期的に行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会との連絡を密にして、協力が得られるような関係となっている。地域行事にも積極的に参加し、地元の中学生の実習生の受け入れもしている。利用者の楽しそうに交流している写真が掲示されている。	○	建物前の広い駐車場を活用したイベントなども期待できるので、今後も積極的に地域との交流に取り組むことに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義、目的を職員及び管理者が理解し、改善点を話し合っている。今回の外部評価についても全ての職員が関わった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、ホームの取り組んでいる状況や委員から提案を受けられるように取り組んでいる。議事録にその内容が記録され、経過報告や意見交換の内容、その後の取組状況等も記載している。課題は職員全てが共有できるような仕組みがつけられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の実態を定期的に伝えている。介護相談員の受け入れもしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に近況報告をしている。また、毎月1回発行のホーム便り(和み)を金銭出納帳のコピーと共に送っている。状態に変化があった場合には、電話連絡するなど個々に合わせた報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や要望を言い易い関係、雰囲気づくり心掛け、寄せられた意見には、職員会議等に諮り、解決に努めている。些細な意見等も真摯に受け止める姿勢で利用者や家族に接している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動や退職等による利用者への影響を十分に認識し、各ユニットの職員を固定し、馴染みの関係作りを心がけている。やむを得ない移動や離職に際しては、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での定期研修の他、外部で行われる研修にも積極的に計画的に受講させるように配慮し、職員の専門性を高めるように取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流は定期的に行い、市主催の研修等にも参加しているが、市内の同業者との連携にまでは至っていない。必要に応じた連絡は行われている。	○	市内の事業所職員とも連携を図り、様々な事例研究を図る等の取り組みにも繋げることに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談時に利用者本人や家族から希望や状況などを聞き取り納得を得る介護計画を立て、利用者がホームに馴染んだ頃からサービスの開始をするなど、時間をかけ馴染みながらの利用を工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いを汲み取る対応を職員が意識している。利用者は「人生の先輩である」という考えを共有しながら学んだり、支えあう関係を築いている。テーブルを囲み共に過ごす時間を設け、充実した日々が送れるように配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が利用者の思いや意向の把握に努め、それぞれが自由に過ごすことができるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	それぞれの利用者がより良く暮らしていくために、利用者本人や家族、職員などで個別の介護計画を作成している。職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは期間前であっても変化に応じて行っている。目標に対する達成度に応じた見直しを適切に行っている。	○	状況に変化が無い利用者に対しても、月に1度は見直し、確認する(新鮮な目で家族や本人の意向や状況の確認)計画の見直しを行うことを望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて通院や送迎など必要な支援について柔軟に対応している。また、利用者の日々の意向や希望に対応できるように取り組んでいる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの利用者の希望を大切に、現状を詳細に伝え適切な医療が受けられるようかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関との関係作りもできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針については、認識しながら、家族からの相談もまれにあるが、全員で方針を検討していくにまでは至っていない。	○	ターミナルケアについては、難しい側面もあるが、ホームとしてどのように取り組んでいくかを定期的に検討を行うことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーについて損ねることが無いように留意するとともに、日常の生活の中でも心がけて接している。また、職員は記録等の取り扱いに注意し、個人情報の保護にも適切に対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に配慮しながら、できるだけ自由に過ごせるように心がけている。ホームの都合ではなく、利用者のペースに沿ったホーム運営がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人全体の配食システムであるが、少しずつ改善している。手作りの食事回数を増やし、訪問当日は配食の日だったが、利用者の状況に合わせて刻み食やおにぎりにしたり、お皿に移し変えるなどの工夫がされている。おやつを利用者と共に作り、準備や片付けも日常的に一緒に行われている。	○	様々な事情があると思われるが、今後も食事を楽しむ工夫について検討し、実践されることを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意向に沿った入浴支援がされている。希望者は、毎日入浴している。職員の対応も利用者の状態に応じた工夫がされている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの利用者に合わせた支援を心がけ、楽しみごとが見つけられるよう工夫している。また、利用者と一緒に過ごすようにテーブルを囲んでゲームやリハビリ体操も工夫して行っている。散歩や季節の行事を楽しんでいる様子が伺える。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、玄関前のベンチに座って会話や、積極的に散歩等の外出支援を行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は一切施錠せず、利用者一人ひとりの外出傾向などを把握し見守っている。すべての職員が鍵をかけることの弊害を理解し、かけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルや緊急連絡網があり、事務室の電話の前に貼ってある。定例会で、避難訓練について話し合いをしている。	○	緊急時対応については十分に検討しているので、地域住民にも協力が仰げるような定期的な避難訓練の実施等、様々な状況を想定して更なる安全対策を講じていくことに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じた水分量、食事量が把握し、記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が製作した作品や習字が展示され、季節の花が飾られた共有空間には、行事の写真も貼り出され、和やかな雰囲気になっている。寛げるソファが視線を隠す位置に置かれ、落ち着いて過ごす工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物がそれぞれの居室におかれ、利用者に合わせて配置になっており一人ひとりが居心地よく過ごせる居室になっている。電子ピアノを持ち込んでいる入居者も居る等、午後の一時に穏やかなピアノの音が流れていた。		